



速報

公益財団法人
食の新潟国際賞財団

本賞に坪井達史氏（日本）

アフリカにおける稲作技術の開発と普及を実践

世界各国から多数の推薦

増大する飢餓人口や食に帰因する健康不安など、世界の食の状況は深刻です。

食の分野に特化した国際顕彰制度は、1986年に創設された世界食糧賞（米国）があります。食料生産や食品産業が盛んな新潟も、食をテーマに世界貢献しようと、食の新潟国際賞を設け、その実現に取り組んでいます。

世界各国から食分野で活躍する個人・団体の推薦を受け、「本賞」「佐野藤三郎特別賞」「21世紀希望賞」の3部門で受賞者を選定しました。

6月9日
理事会

受賞者を決定

選考委員会は唐木英明・(公財)食の安全・安心財団理事長を委員長に各界の有識者11名で編成されました。「世界にとって普遍的な価値を持つこと」「人々の暮らしを救う業績であること」などを原則に選考を進め、5月21日に東京で開かれた選考会議で最終候補を決め、理事会に答申しました。6月9日、新潟市で開催された理事会で、第三回受賞者3名を決定しました。

本賞＝坪井達史氏

ウガンダ国立作物資源調査研究所
JICA稲作上級技術アドバイザー(日本)



坪井氏は30年間に渡って、アジア・中東・アフリカの開発途上国において稲作技術の指導に携わってきた。前半はアジア各国において水稻を中心に稲作技術を指導した。その後コートジボワールを皮切りにアフリ

カの活動を行う中で、90年代半ばに開発された陸稲（ネリカ）のポテンシャルに注目し、04年以降、ウガンダにおいてネリカ振興のための試験研究や普及に取り組んでいる。氏の技術指導を通じて恩恵を受けたウガンダの農業関係者や農民は1万4千人以上に上る。同氏は、アフリカにおける稲作の技術開発と普及を実践する世界的な第一人者であり、日本を含む国際社会がアフリカにおいて稲作振興に取り組むにあたり、今後も中核的な役割を果たしていくことが期待される。1949年12月11日生まれ。

佐野藤三郎特別賞=C.L.ラクシュミパティ・ゴウダ氏
 国際半乾燥熱帯作物研究所(ICRISAT)(インド)



ゴウダ博士は過去37年間に亘って、高収量と抗立ち枯れ病や、抗オオバコが対策に重点を置きながら、ヒヨコマメの改良開発研究に携わってきた。彼と彼のチームは、進んだ

品種系列を開発し、これを世界中の30カ国供給した。この品種素材を基礎にして、10カ国の発展途上国の科学者たちが、68種類の高収穫品種を開発する事ができた。これらの品種の多くは農家の収入向上や国家のGDPに対して、目覚ましい貢献となった。1949年6月インド生まれ。

21世紀希望賞=中井博之氏
 新潟大学農学部自然科学研究科 助教(日本)



自然界には多種多様なオリゴ糖が存在しており、そのそれぞれが独自の機能性・利便性を有しているが、多様性に富むオリゴ糖のそれぞれの単一で低コスト大量調製が困難なため、現在産業的に利用可能

なオリゴ糖はごくわずかである。中井博之博士は、ホスホリラーゼという自然界に存在する安全な生体触媒である糖質関連酵素を活用して、ヒトの健康保持増進に有益な機能性オリゴ糖のバリエーションを大幅に拡大し(200種類以上)さらにデンプンやセルロースなどの植物性バイオマスまたカニやエビなどの甲殻類の外骨格を形成するキチンなどの海洋性バイオマスを、高付加価値な機能性オリゴ糖に高収率変換する革新的な低コスト汎用製造技術の開発に成功した。1977年10月生まれ。

食の新潟国際賞 選考委員会

(敬称略)

役職	氏名	所属・職名
選考委員長	唐木 英明	(公財)食の安心・安全財団理事長
委員	赤阪 清隆	(公財)フォーリンプレスセンター理事長
委員	石井 勇人	共同通信社 編集委員 日本農政ジャーナリストの会副会長
委員	今野 正義	日本食糧新聞社 代表取締役会長CEO
委員	坂本 元子	和洋女子大学名誉教授・評議員
委員	柴田 明夫	(株)資源・食料問題研究所 所長
委員	生源寺 眞一	名古屋大学大学院生命農学研究科教授
委員	シンディ・ハイドラ	オランダ王国大使館 農務参事官
委員	引野 肇	日本科学技術ジャーナリスト会議事務局 長 中日新聞社 東京本社編集委員
委員	平山 征夫	新潟国際情報大学 学長
委員	山野井昭雄	味の素(株)顧問

表彰式スケジュール

- 日程 平成26年 10月29日(木)
- 会場 朱鷺メッセ国際会議場 ホテル日航新潟
新潟市中央区万代島5-1
- 基本プログラム
 - (1)表彰式 (10月29日)
 - (2)受賞記念講演(10月29日午後)
 - (3)祝賀パーティー(10月29日)



公益財団法人
食の新潟国際賞財団事務局
 〒951-8131 新潟市白山浦1丁目425番地9
 新潟市役所白山浦庁舎内
 Tel 025-201-8901 fax025-201-8902
<http://www.niigata-award.jp>

食の新潟国際賞財団

新潟は、食料生産や食品産業の盛んな地域です。水と土との壮絶な戦いによって全国一の美田を形成した多くの先人の志を誇りとし、「食の新潟」を築き上げた、先人の献身と情熱を次世代に継承するために、世界に貢献する事業として「食の新潟国際賞」を創設しました。

国際賞は、世界の重要な共通課題となっている食の量的質的課題に対し先進的に挑戦し、めざましい成果を挙げている人（業績）を表彰しています。

「公益財団法人食の新潟国際賞財団」は新潟県内の産業界、農業界、学术界、行政の有志により、2009年3月に財団を設立し、国際賞顕彰事業のほか地域経済の活性化事業、産学官民連携推進事業など幅広く活動を広げております。

理事 (敬称略)

	氏名	所属・役職
理事長	古泉 肇	亀田商工会議所顧問
副理事長	篠田 昭	新潟市長
副理事長	池田 弘	新潟経済同友会筆頭代表幹事
副理事長	田中 通泰	亀田製菓(株)代表取締役社長
副理事長	吉田 康	(株)ブルボン代表取締役社長
常務理事	与田 一憲	(公財)食の新潟国際賞財団 ディレクター
理事	石黒 正路	新潟薬科大学教授
理事	今井 長司	新潟県農業協同組合中央会副会長
理事	大坪 研一	新潟大学教授
理事	小田 敏三	新潟日報社代表取締役社長
理事	門脇 基二	新潟大学教授・副学長
理事	齋藤 吉平	新潟県酒造組合会長
理事	佐藤 功	佐藤食品工業(株)取締役会長
理事	高橋 秀松	新潟商工会議所副会頭
理事	中山 輝也	(株)キタック代表取締役社長
理事	山我 森實	亀田郷土地改良区理事長

■ 顕彰(賞)の事業理念

「食の新潟」を世界の食の情報発信の拠点とし、食の質と量を高め、事業活動を通して食文化を創造的に発展させ、人類の福祉と健康、平和に多大な貢献をもたらした業績を顕彰し、永続可能な社会の確立に寄与することを事業理念としています。

■ 財団の組織理念

新潟県は日本有数の食の生産地であり、また新潟市は極めて高い水準の食料自給率を誇る田園政令市です。

「食の新潟」は、佐野藤三郎氏に代表される多くの先達の志と実践によって形成されましたが本財団は、先人の志を継承し、「食の新潟」をさらに世界に発信し国際賞の成果を高めるため運営活動を行います。

評議員

氏名	所属・役職
安斎 隆	セブン銀行代表取締役会長
唐木 英明	(公財)食の安全・安心財団理事長
北原 保雄	新潟産業大学学長
小泉 武夫	東京農業大学名誉教授
坂本 元子	和洋女子大学評議員
高橋 姿	新潟大学学長
寺田 弘	新潟薬科大学学長
辻井 博	京都大学名誉教授
並木 富士雄	第四銀行取締役頭取
服部 幸應	学服部学園理事長
平山 征夫	新潟国際情報大学学長
山口 寛治	奥野総合法律事務所特別顧問
山本 正治	新潟医療福祉大学学長

監事

氏名	所属・役職
五十嵐 祐司	東邦産業(株)代表取締役社長
柴山 圭一	第四銀行営業統括部部长
野崎 正博	一正蒲鉾(株)代表取締役社長

相談役

氏名	所属・役職
武田 修三郎	日本産学フォーラムファウンディングディレクター
栗山 清	(株)栗山米菓 相談役

In Memory of Sano Touzaburo

Niigata International Food Award